

保存修復学	後期
-------	----

[講義] 第3学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○教授／斎藤 隆史 t-saito@ 准教授／松田 康裕 ymatsuda@ 講師／泉川 昌宣 s-izumi@
非常勤講師／吉山 昌宏 非常勤講師／佐野 英彦 非常勤講師／西谷 佳浩

【概 要】

鑄造修復を含む間接修復法の基本的事項および技術を理解するとともにMIに基づく修復法との違いを理解する。歯科用レーザーによる硬組織切削について理解する。さらに破折歯・変色歯に対する処置法について理解する。

【学修目標】

- ☆ 鑄造修復法の各ステップの理論と方法を説明する。
- ☆ 各種セメントの性質、使用法を説明する。
- ☆ MI (Minimal Intervention) に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明する。
- ☆ う蝕およびその他の硬組織疾患に対する歯冠修復の臨床的意義を説明する。
- ☆ 歯の破折および歯の変色の原因、種類および処置を説明する。
- ☆ 術後管理について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	◎破折歯の処置	● 破折歯の処置について理解する。 ○「保存修復学」P.90-P.95 E-3-3)-(1)-①	泉川 昌宣
2	◎特別講義（象牙質視覚過敏症）	● 象牙質視覚過敏症の症例提示により、検査・診断、治療法について理解する。 ○「保存修復学」P.84-P.85 E-3-3)-(1)-①	吉山 昌宏
3	◎特別講義（歯髄・象牙質複合体と歯髄保護）	● 歯髄・象牙質複合体の保護と再生について学ぶ。 ○「保存修復学」P.9 P.122 E-3-3)-(1)-⑤	西谷 佳浩
4	◎鑄造修復（1）	● メタルインレー修復の特徴、適応症、窩洞の特性、窩洞形成法を理解する。 ○「保存修復学」P.193-P.207 E-3-3)-(1)-①③④⑤⑥⑦	斎藤 隆史
5	◎鑄造修復（2）	● 印象材と印象採得法、作業模型の作製法を理解する。 ○「保存修復学」P.193-P.207 ● ワックス・パターンの調製法、埋没法を理解する。 ● 鑄造法、鑄造体の仕上げ・研磨、合着を理解する。 ○「保存修復学」P.193-P.207 E-3-3)-(1)-①③④⑤⑥⑦	斎藤 隆史
6	◎歯科用レーザー	● 歯科用レーザーの特徴と硬組織切削について理解する。 ○「保存修復学」P.106-P.107	泉川 昌宣
7	◎合着と接着	● 歯質と修復物との接着、歯科用セメントの種類、用途と所要性質を理解する。 ○「保存修復学」P.181-P.191 E-3-3)-(1)-③	泉川 昌宣
8	◎コンポジットレジンインレー修復とセラミックインレー修復 (CAD/CAM)	● コンポジットレジンインレー修復について理解する。 ● セラミックインレー修復 (CAD/CAM) の特徴と修復法を理解する。 ○「保存修復学」P.207-P.211 ○「保存修復学」P.212-P.215 E-3-3)-(1)-①③④⑤⑥⑦	松田 康裕

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	◎変色歯の処置 ◎ラミネートベニア修復	● 変色歯の漂白法を理解する。 ● ラミネートベニア修復の材料と修復法を理解する。 ○ 「保存修復学」 P.85-290 ○ 「保存修復学」 P.224-231 - E-3-3)-(2)-②⑥⑦	松田 康裕
10	◎修復処置後の術後管理と補修修復	● 修復処置後の術後管理と補修修復の方法を理解する。 ○ 「保存修復学」 P.241-P.248 - E-3-3)-(1)-⑧	斎藤 隆史
11	◎アマルガムと水銀の取扱い	● アマルガムで修復された歯に対する取扱いに関する注意点について学ぶ。 ○ 「保存修復学」 P.2 P.177-178	泉川 昌宣
12	◎特別講義（コンポジットレジン修復）	● コンポジットレジン修復の特徴、適応症、窩洞の特性、窩洞形成法、修復操作を理解する。 ○ 「保存修復学」 P.141-P.170	佐野 英彦

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

◇ 後期講義の評価は定期試験（90%）、小テスト（10%）

後期評価は、後期講義（50%）、後期実習（50%）

・〔判定法〕前期評価（50%）、後期評価（50%）とし、60点以上を合格とする。

【教科書】

前期と同じ。

【参考書】

前期と同じ。

【学修の準備】

☆ 指定した教科書の該当ページを事前に読んで予習しておく。（30分）

☆ 講義の最初に、前回の講義内容に係る小テストを実施するので復習をしておく。（30分）

・講義の最後にも小テストを行う。

【ディプロマ・ポリシーと該当授業科目との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得するために、保存修復学を学修する（専門的実践能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている（自己研鑽力）。

【実務経験】

斎藤 隆史（歯科医師）、泉川 昌宣（歯科医師）、松田 康裕（歯科医師）、吉山 昌宏（歯科医師）、佐野 英彦（歯科医師）、西谷 佳浩（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

学理に則った教育内容と実務経験を活かすことで、教育成果が期待できる内容となっている。